



／ 知ってほしい。消防署のこと。／

「ヒーロー」であるために！

■問合せ 枕崎市消防本部 TEL72-0049

いつ、どんな災害が起こるか分からない。市民に助けを求められたとき「もう大丈夫、私たちが来ました」と言えるヒーローであるために、消防職員が行っている日々の訓練や業務の様子を紹介します。

今月紹介するのは、「油圧救助器具取り扱い訓練」です！

「油圧救助器具」とは、器具内に入っている「油」に圧力をかけることにより、大きな力を出すことのできる器具のことです。【切断】や【挟み】、【持ち上げ】など、人力では困難な作業も「油圧救助器具」を利用することで容易に行うことができます。主に、交通事故などで大きく変形した車の中から脱出できなくなった要救助者の救出活動で活躍します。

ほかに、重量物の下敷きになってしまった要救助者や、何かに体の一部が挟まってしまった要救助者の救出など、さまざまな現場で活躍します！

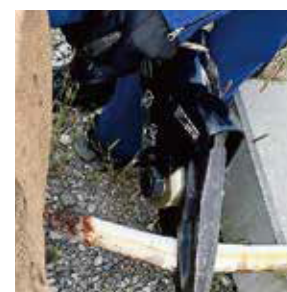


枕崎市消防本部 公式インスタグラム

消防に関するイベントや訓練などの情報を発信しています。

フォロー、いいね！をよろしくお願いします！





油圧救助器具は、人力の何倍もの力を発揮しますが、器具自体は重い物もあり、使用の際には高度な知識と体力が必要となるため、私たちは訓練を通して頭と体を同時に鍛えています。全ては市民のヒーローであるために！

今月の担当は 家康 隊員 です！

こんにちは！地域おこし協力隊の家康です。

今月は「Whispering Meadow（メドウガーデン）」の最新情報をお届けします。



協力隊が行く！



▲メドウガーデン

別府地区東白沢にある耕作放棄地を整備したWhispering Meadow季節の花と風が吹くメドウガーデン」の「ガーデンⅠ・Ⅱ」を4月末頃にオープンしました。春の香りが漂う黄色い花の波を見ようと、地域住民の方々はもちろん、近隣市からも多くの方が訪れてくださり、意義深い地域美化活動となりました。さらに、5・6月には同じ地域にある約2200㎡の耕作放棄地を「ガーデンⅢ・Ⅳ」として追加で整備しました。

先月、ガーデンⅡ・Ⅳでは新たに種まきを行い、少しずつ芽が出始めています。真夏には、ガーデンいっぱい咲くひまわりと、それを楽しむ皆さんの笑顔に出会えるかもしれません。

ひまわりは太陽の方を向いて成長すると言われますが、実は種は日光を嫌うため、播種後に遮光を施すと発芽率が高くなるそうです。しかし、栽培面積が広すぎて手が回らず、そこまでの作業はできませんでした（笑）。

また、ひまわりには、太陽というひとつの方向を見つめ続ける姿に由来して、「高貴、崇拜、愛慕、一途」という花言葉があり、贈り物として良いとも言われています。夏にメドウガーデンを訪れた方には、ひまわりの花をプレゼントしたいと思っています！

家庭菜園体験参加者募集

ガーデンⅡの一角では、火山の噴火口をイメージしたうねと、その中央に円錐形の竹タワーを設置し、家庭菜園体験の試行として植えたトマトは、今ではすくすくと育っています。

そのガーデンⅡと最近整備したガーデンⅢは、家庭菜園体験の参加者を募集しています。家庭菜園に興味のある方でしたら、市内外を問わず、移住希望者の方も大歓迎です。一緒に野菜作りや収穫を楽しみながら、農作業を体験してみませんか？（先着順・初心者大歓迎）。

草や雑木、そして竹で覆われた耕作放棄地が、花や野菜が育つガーデンへと生まれ変わりました。この場所が地域の風物詩として新たな交流の足がかりとなり、誰もが一度は訪れたいと思う、もっと素敵な地域になればと思っています。ぜひお気軽にご参加ください！

●ガーデンの所在地
白沢東町604番地付近

■問合せ 企画調整課企画調整係
TEL76-1089



ガーデンの様子はこちら



スポーツ・文化 イベント情報

南浜館

開 9:00 ~ 17:00
※入館は16:30まで

休 毎週月曜日
※月曜日が祝祭日の場合は翌日

問 スポーツ・文化振興課
TEL72-9998

○第60回記念枕崎市総合文化祭 作品・参加者募集

下記の期間で開催される第60回記念枕崎市総合文化祭展示部門で展示する絵画、書道、写真等の作品および11月3日(火・祝)に開催される市民芸能祭にて舞踊、楽器演奏、ダンスなどを披露する参加者を募集しています。

詳細は、南浜館までお問い合わせください。

【展示部門】

- 会期 10月24日(土)～11月3日(火・祝)
- 会場 南浜館、市民会館(11月2・3日生花展のみ)

【芸能部門(市民芸能祭)】

- 会期 11月3日(火・祝)
- 会場 市民会館大ホール
- 観覧料 無料



市長 コラム

vol.85



ドーハの悲劇から33年

1993年10月28日に「ドーハの悲劇」は起きました。その年の5月15日に日本のプロサッカーリーグ「Jリーグ」が10チームでスタートして、その勢いのままワールドカップのアジア最終予選まで進んだサッカー日本代表がワールドカップ初出場に最も近づいた瞬間を、私はテレビの前で観戦しました。結果は、皆さんご存知の通りです。後半のロスタイムに入りコーナーキックを守り切れればワールドカップの出場権を手に入れられる、試合終了間際の失点。テレビの前で呆然となったことを覚えています。

それから33年、現在のサッカー日本代表の姿は、私たちに元氣と勇気を与えてくれる存在になっています。33年前のドーハでの試合に出場していた森保一監督が率いるチームが素晴らしいパフォーマンスを見せています。その中で森保監督の選手へ対する態度、サポーターへの態度、相手チームへの態度、メディアを含むチームを取り巻く人々への態度、リーダーとしてのすべての振る舞いがとても勉強になります。特に今回、1戦目を戦ったオランダへのリスペクトには心を打たれました。ドーハの悲劇で日本代表を率いていたのが日本初の外国人監督、オランダ人のハンス・オフト監督だったという縁もあり、記者会見の中でオランダ人記者を通じてオランダへの「感謝」を伝えたエピソードは感動的でした。

ドーハの悲劇から33年、いまワールドカップ北中米3カ国大会を戦う日本代表が優勝を目標に、ニッポンをひとつにする戦いを続けています(この原稿はグループリーグ2試合を終えた時点で書いています)。2005年、日本サッカー協会は「2050年までにワールドカップ優勝」の目標を掲げています。夢に向かって、これからの戦いが楽しみです。